

## 研究主題

# 楽しみ、挑み、磨き合う子どもの育成

～体育を通して子どもの学び合う力を育てる～

## 平成27年度 山形五小の校内研究

### 主題設定の理由

本校は、「運動大好き、友達大好き、勉強大好き」の教育目標を受け、子どもたちの主体性を育むことを目指している。平成6年から体育科を柱とする環境を整え、子どもたちの主体的な学びを促すことを目指している。また、健康な子どもたちの実態に目を向けてみると、「あたたかく関わる力」や「互いに学び合う力」が育っていないという課題が見えてきた。その実態を受け、今年度は「あたたかい関わり」をキーワードに、「居心地のいい、あたたかい学校」を目指して教育活動全体の改善を図っている。そこで、「あたたかい関わり」の基盤となる学び合う力を、体育科の授業づくりで、各教科の授業づくりと関連させながら追求し、子どもたちが身に付けられるように、サブテーマとして「体育を通して子どもの学び合う力を育てる」とし、体育科における目標に迫りながら、さらに子どもたちの学び合う力を身に付けていきたいという思いから、本研究に挑戦する。昨年度までの研究の成果から、子どもが主体的に学ぶための条件を「子どもの意欲を引き出す工夫」「技能が身に付く工夫」「学び合いが成立する工夫」の3つに整理する。今年度も、以上の3つの工夫を重点とし、体育科と各教科の授業づくりを関連させながら探究していく。

### 研究主題について

#### (1) 体育科における「楽しみ」とは

授業における子どもの意欲の源は「楽しみ」である。心身をともなう実感ある学びで体得させたい「楽しみ」とは、「動くこと自体の楽しみ」、「身体を高める楽しみ」、「仲間と集う楽しみ」、「心身についてわかる楽しみ」、「人の役に立つ楽しみ」等、学びの過程で感じられる豊かな「楽しみ」である。これらを各単元でしっかり味わわせていく中で、より質の高いねらいに向かって自ら高まっていくような子どもの姿を求めたい。

#### (2) 体育科における「挑み」とは

どの領域でも、心身がより高まっていく実感がもてるのが体育科の学習である。「できた・できない」「勝った・負けた」とい

う結果のみに意識がいきがちな子どもたちに、自分の心身がどう変わりどう高まったかその過程に意味を持たせ、努力や練習する意味について、子どもたちがより価値を見出し、よりねばり強く取り組んでいく姿を求めている。

### (3) 体育科における「磨き合う」とは

仲間との関わりの中で心身の高まりをめざす学びにおいて、温かい雰囲気の中で、互いの違いを受け入れつつ、互いに認め合うような関係性をつくるのが大切である。心と体を一体として捉える体育において、言葉による関わり合いを通し、他人を受け入れ自分の課題に向かって精一杯取り組む姿を求めている。

## 研究の内容

### (1) 「学び合いが成立する工夫」を重点にした、体育科の授業改善

授業づくりの3つの柱をもち、体育科の授業づくりを探求する。  
今年度は、子どもたちの実態から「学び合いが成立する工夫」を重点にして体育科の授業づくりを探求する。

#### ア. 子どもの意欲を引き出す工夫

- ①場の設定、教材・教具の工夫を行う。
- ②子どもたちがみんなで運動やルールを考える活動を設置する。
- ③子どもたちが、「できそうだな」という見通しをもつことができるようにする。
- ④子どもたちが運動や活動の意味を理解できるようにする。

#### イ. 技能が確かに身に付く工夫

- ①確かな力につながる基礎感覚づくりを継続的に行う。
- ②ねらいと活動を焦点化する。
- ③モデリングや資料の効果的な提示を行う。
- ④学習カードを活用して、活動の見通しをもったり学習のまとめ（技能の確かめ）ができたりするように工夫する。

#### ウ. 学び合いが成立する工夫

- ①子どもの意識にそって課題を提示する。
- ②「分かることの大切さ」が、実感を伴って理解できるようにする。
- ③話し合う場面では、子どもの気づきをつなぐことを大切にする。
- ④子どもが必要感をもって交流やふり返りができるようにする。

## (2) 健康教育の推進・生活習慣の改善

生活リズムの見直しや保健領域の学習などを通して、基本的な生活習慣の定着を図りながら、「気力」「体力」「学力」の向上を推進していく。

アイウ 生活リズムアンケートの実施（7月）  
生活リズム週間の設定（8月、1月）  
保健学習の推進

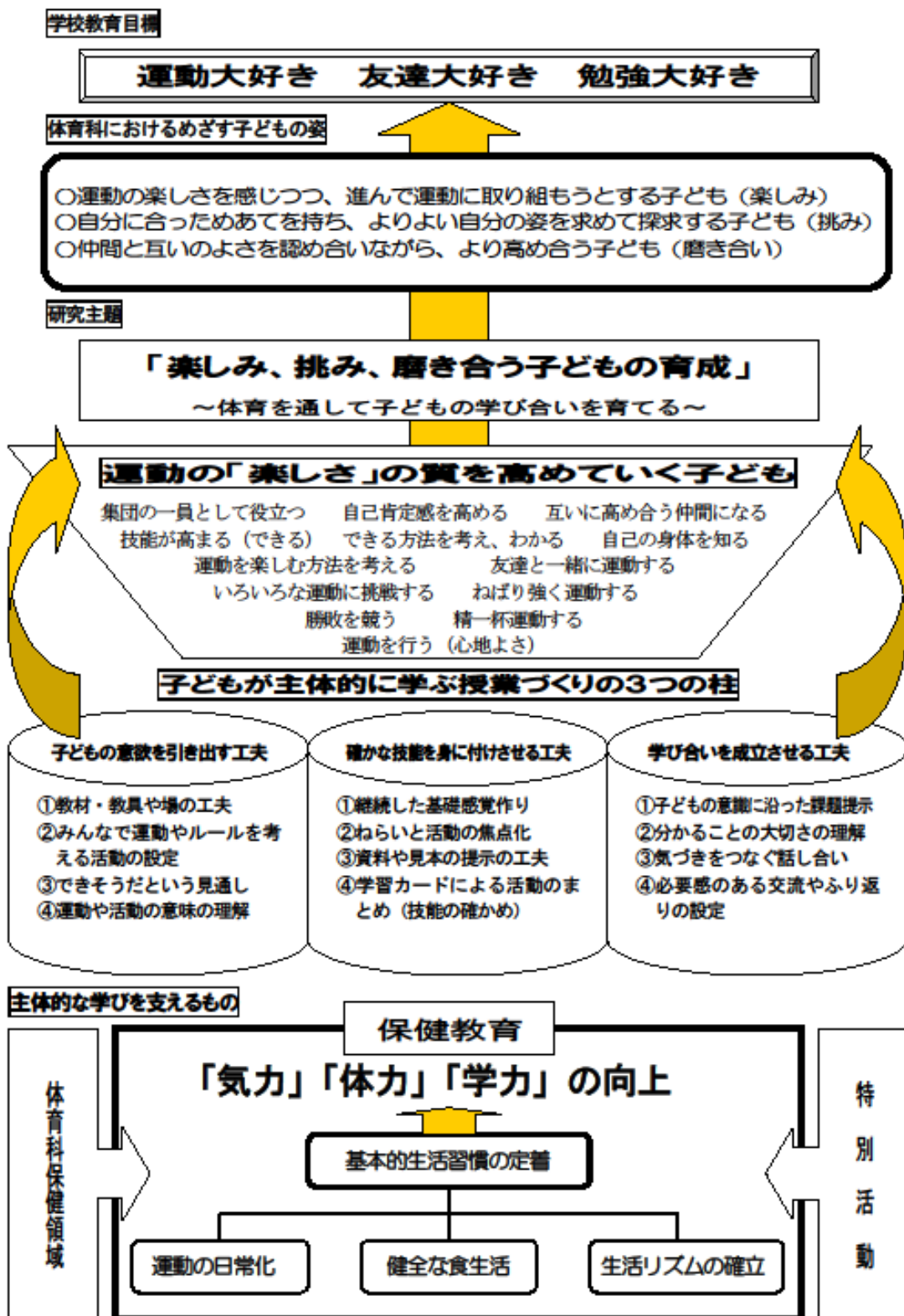
## (3) 教科外体育・運動の日常化の推進

運動の日常化と体力の増進を図るための活動を設定し、様々な運動に触れる機会を増やしていく。

アイウエオ 自己防衛の記録に挑む、チャレンジイベントの開催（空き教室を利用）  
縦割り時間や環境の整備（グラウンドの設、放課後に使用できるボールの常備）



## 学校研究全体構想図





五小の体育  
楽しみ 挑み 磨き合う 子ども達







山五小  
おひさま通信



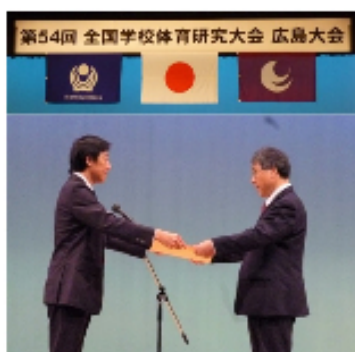
ダイジェスト版

山形市立第五小学校  
平成 27 年 12 月 1 日  
校長 三 森 聡

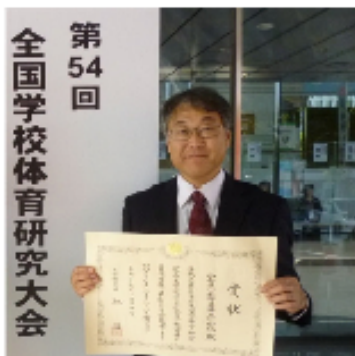
全国学校体育研究

最優秀校 受賞 (文部科学大臣賞)

11. 12(木) 広島文化学園 HBG ホール



スポーツ庁長官より表彰を受ける



全国学校体育研究最優秀校  
(文部科学大臣賞) の賞状



満席の会場

本校は、「楽しみ、挑み、磨き合う子どもの育成」をテーマに掲げ、子ども達の主体的な学びを育てるために体育を窓口にして研究を行っており今年度で21年目になります。

この間、市の公開研究会の委嘱を受けるなど、研究した実践を数多く発表してきました。この度、こういった継続研究や子ども達が主体的に運動に取り組む日常化の実践等が評価され、県の推薦委員会より日本学校体育研究連合会に優秀校として推薦されました。さらに、本校を含め全国から推薦のあった学校

(105校)から文部科学省をはじめ学識経験者等で構成される最優秀審査会の厳正なる審査の結果、研究内容の成果や実績等の選考基準により、本校が全国学校体育研究最優秀校(文部科学大臣賞)に選ばれました。

11月12日(木)、広島県で行われた表彰式では、全国から集まった4000人もの前で、鈴木大地スポーツ庁長官より五小に賞状が授与されました。この榮譽を誇りに、今後も子ども達の生き生きとした姿を目指して研鑽して参ります。



本校の授業研究会より2年

=実践紹介=

■小学校研究論文掲載ホームページ

<http://www.gakutairen.jp/kenkyumerumaga/yamagatasiritudaigosyougakkou.pdf>

■公益財団法人日本学校体育研究連合会メールマガジン

<学体連ホームページ> <http://www.gakutairen.jp>

クリックし  
て下さい



